

saveMLAK プロジェクト

2023/1/2 発行

saveMLAK ニュースレター 第 76 号

図書館総合展 2022 saveMLAK プロジェクト企画

開催報告

参加している人もいない人も、11 月は大変お疲れ様でした。個人的には総合展関係を追っていくうちに気づけばあっという間に過ぎた 11 月でした（執筆者の個人的感想で恐縮です）。

saveMLAK では、11 月 10 日（木）19:00-20:30 にオンラインイベントを開催しました。saveMLAK では 2020 年から COVID-19 の影響について、公共図書館、国公立大学図書館、専門図書館の動向調査を行い、休館状況調査に結果を集約しています。今回のイベントでは「図書館をめぐる COVID-19 の影響：— 公共・大学・専門図書館の saveMLAK COVID-19 調査からの報告 —」と題し、公共図書館、国公立大学図書館、専門図書館の調査を実施しているメンバーから各調査の状況を報告し、パネルディスカッションを行いました。

【登壇者】

公共図書館：子安伸枝

(saveMLAK COVID-19 Libdata チーム)

国公立大学図書館：小陳左和子（東北大学）

専門図書館：関乃里子（株式会社ブレインテック）

ディスカッション・司会進行：常川真央（中央大学）

3 つの調査の中で、一番早くから調査を実施し、また調査の頻度も高いのが国公立大学図書館調査です。2020 年 2 月末から、毎週実施しています。公共図書館の調査は 2020 年 4 月から株式会社カーリルによる調査を引き継ぐ形で始まり、これまでに 33 回の調査を行いました。専門図書館調査はこれまでに 6 回実施されていますが、専門図書館の存在

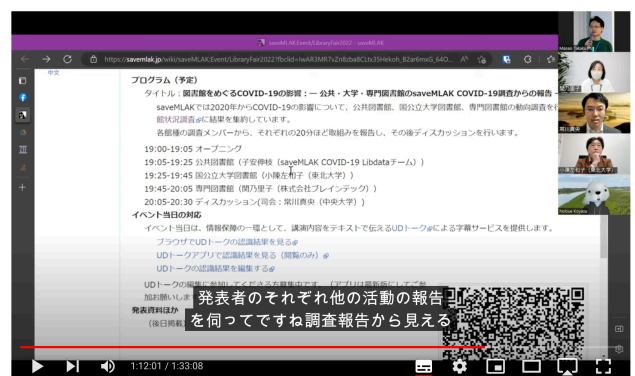
を把握することの難しさから、休館調査としてはもちろん、専門図書館の存在を把握しリスト化する調査にもなりました。これら 3 つの調査の概要を各登壇者が 15 分程度にまとめてお話ししました。館種の違いやチームの違いが見える発表になっていたかと思えます。

発表スライド、またアーカイブ動画を saveMLAK の [図書館総合展 2022saveMLAK プロジェクト企画](https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/LibraryFair2022) のページ (<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/LibraryFair2022>) に掲載していますので、イベントに参加できなかった方はぜひこちらを御覧ください。

また、各調査のデータはクリエイティブ・コモンズ・ライセンス CC0 で公開され、誰でも自由に利用することができます。[休館調査](https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey) のページ (<https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey>) で調査データやプレスリリース等を見ることができすので、改めて調査の内容を見ていただければと思います。

なお、saveMLAK は今年の図書館総合展からアプリ UD トークを利用して、イベントの字幕配信を行っています。今回の企画でも字幕の配信を行いました。また、YouTube の字幕も UD トークの認識結果を活用しています。そちらも見どころになっておりますので、ぜひご覧ください。

【子安】



図書館総合展 2022 の様子
(ディスカッション場面)



ディスカッション記録

■感想

常川：報告から見えるそれぞれの姿、感想から伺いたいのですが。

子安：大学は調査項目がすごく丁寧ですね。毎週のデータの積み重ねも貴重ですし、これは誰かが研究したら良いと思っています。発表で実際やっていらっしゃるところも聞けてよかったです。専門の調査は、私も参加させてもらったのですが、カラーの違い、サービスの仕方の違いがあったので、それが興味深かったですし、

改めてそういう図書館を知ることができてよかったです。

小陳：普段、公共調査の方、専門調査の方とは、あまり交流がないので、今日は本当に三つ並んで楽しいなっていう感じです。公共図書館の方は毎回作業の方を募っておられるので、その回に何人、どういう人が来るのかわからないっていうのがドキドキじゃないかなっていうふうには思います。それから専門図書館の方は、リストがないっていうのは本当にびっくりです。

その図書館の規模とか、様子とかっていうのは、バリエーションがすごく、そんなの全然大学図書館の比じゃないなっていうふうに改めて思いました。

関：とにかく公共図書館調査というものが先にあったので、専門図書館調査はいろいろなポイントがあったんですけども、基本的な調査のやり方についてほとんどそのやり方を踏襲させていただいて、敷かれたレールの上に乗かって自分たちの違うとこだけ考えればよくて、作業の進め方とかそういうことももう全部教えていただいてやったので、まずそれを確立したのがすごいなと思って、すごい感心していました。単純にみんなで手分けして作業するというのではなく、その誰かが作業しやすいように環境を整えることをしてくれる人とか、初めて来た人にやり方を Zoom でちょっと話しながら教えるとか、楽しく作業をできる仕組みとかそういうのがもう確立されていたので、そこに悩まずに、自分たちのことだけを考えてできました。最初に着手したのはカーリルさんでしたけれども、自分は今まで saveMLAK の活動とかに全然かかわって来てなかったんですけども、

元々あった saveMLAK の方たちの活動の上にさらに公共図書館調査が乗かってすごい仕組みなんだなって、感動した覚えがあります。自分もちょっと参加したといっても実は本当にちょっとしか参加してなくて。でも、一館でも自分の手で調査すると何か見えてくるものが変わったりするので、すごいいい仕組みだなっていうのを本当に思っています。

大学図書館の調査は調べたものを分析するっていうところで、こんなものができるのが面白いなっていうふうにごく思っていました。何ですかね、やっぱりグラフィックにしてみても初めてなんかこう見えるものとかもきっとあるでしょうし、専門図書館の方はそういうふうデータとして扱える部分がすごく少なくて、割とベストプラクティスとかそういう感覚で取り上げるものがやっぱりどうしても主体になってしまっているの、そのあたりがすごいな、うらやましいなと思うところ。これを本当にずっと続けてきたのがすごい記録になっているし、これから何か本当に研究する人が出てくるような、そういう基礎的なデータだなと思ってそれも感動しました。本当にお疲れ様です。

■コツと課題

常川：ありがとうございます。はい、三方からそれぞれの発表についての感想を相互にいただきました。いかに調査するか、この調査はこういうところがすごいというお話がありました。共同でこういうふう調査をするというのはなかなか見られない活動だと思います。このような共同調査を行うコツとか課題とかが共有できれば良いのではないかなと考えたんですけども。

そういう意味では公共図書館が他の調査での参考になっているということ伺いましたが、この調査の何が大事なのか、何が現在の問題なのかということ子安さんや他の調査に関わられている皆さんからも声をいただければと思います。まずは子安さんいかがでしょうか。

子安：私は緊急 MeetUp に参加できてないんであれなんですけど、まず slack でやろうと思ったのがよかったんじゃないかなと思っています。今 slack は過去の 90 日以降のデータは見られなくなっていますけど、私達が調査を始めたときには結構前



の方のデータもさかのぼって見られる状態だったんですよね。だからとりあえず slack に何か投げとけばやりとりができるみたいな形になっていました。みんな調査時間とかも全然バラバラで、この日からやるっていうのは決まってるけど終わりとかもあんまり定まらない中でやっていたので、slack っていう起点が設定されててよかったなっていうのと、slack はハードルにもなっているのですが、slack に入ってさえしまえば、その後のやりとりはオープンな感じで活発にできたので、そのやりとりがハードルを下げ、ちょっと敷居は高いんですけど、入ってから後の交流についてはやりやすかったんじゃないかなと思います。あとこれはわりと初期に吉本さんがおっしゃってたんだと思うんですけど、誰かにその負担をすごく過度に負わせないように「できる人ができるときにできるだけやる」というのを決め、みんなが合意して進めたのが、実はよかったんだと思うんです。できないときはごめんね、ただし、できるときに今回はやるよっていうふうにやってくれる人がいて、今まで33回続いてきたんだと思うので。これは志ある皆さんのおかげで続いてきたっていうのが大きいかなと思います。ただそういう意味ではちょっと確立してないってところっていうか、組織として強いものではないんですけど。でもそれがある意味、レジリエンスになってるのかなとも思っています。

常川: ありがとうございます。まずは slack でコミュニケーションツールというかそういうところが非常に協力になっていたというところと、「できるときにできる人がやる」という、こういうマインドセットが大事というようなお話を伺いました。

■ ツールとマインドセット

常川: では小陳さん関さんからも共同の調査のコツと課題を改めて伺います。小陳さんいかがでしょうか。公共図書館と大学図書館のケースはやり方は少しあの変わっているところがあると思うんですけど。そういったところから見ていかがでしょうか。

小陳: はい、そうですね。公共図書館の方は、やるときに募ってっていう形でオプトインですよ。

で、私達の方は入るときはもちろんオプトインですけど、今は4人ということで、都合の悪い週はオプトアウトっていう、そういう形なので。もしかしたら何か都合の悪いときは申し訳ないと思ってるかなと思いつつ、そんなこと全然思わなくていいんだよっていうふうには思うんですけども。あとコミュニケーションツールとしては4・5人なので Messenger でいいかなっていう感じで。

考えてみるとですね、公共図書館の方は Zoom でお話をされるっていうこともあると聞いたんですけども、我々はそうやって5人で顔を合わせたことがないなと。

今更思ってますね、それでも Messenger で毎週文字ベースで連絡を取り合ってるっていう感じ。おそらくこの5人はお酒が好きな5人だと思うので1回は飲んでみたいとは思ってるんですけど、遠隔っていうこともあってまだ実現していないんですけども、いつかは打ち上げをしたいなと思っています。

常川: ありがとうございます。では、関さん、いかがでしょうか。

関: 専門図書館調査の方は当初から専門図書館の中の人たちにもっと参加してほしいなっていうのを呼びかけていたんですけども。専門図書館も開館日が結構いろいろでなかなか、調査に参加したいんだけど仕事の日で、あとやっぱり専門図書館本当にワンパーソンでやっているところが多いので、何かこう、やっぱり余裕がない方がやっぱりすごく多いというのは元々知ってたのでそのあたりはあの本当に最初の子安さんの言ったような、そのできる人ができるだけやればよいというところで。私自身はいろんなホームページを見るのは面白かったんで、そういう面白いとできると思う人がやればよいんだなと思ってはいたんですけど。今さっきチャットの方に、専門図書館中の人として調査に参加しなければと強く思いましたって、そういうふうに言うてくださった方もいたので、やっぱりそういうふうには伝え続けていくっていうのも結構大事かなというふうにも感じています。

そうは言っても、なかなかどの頻度でやってくのが正解なのかとか、たくさん頻度高くやってる公共図書館大学図書館と違って、結構思いついたタイミングでやってるみたいなのところがあるので、



これをこの先どうしていくのかなっていうところを一緒に考えてかなきゃいけないっていうのが今時点での、考えることをやんなきゃなっていうのが課題そのものかなという気がしています。なんかもうコロナ禍でとりあえずやってみたっていう時期がちょっと終わりつつあるように思っているのでこれを今後ずっと続けていく活動にどうしていくか。子安さんもおっしゃってましたけども、専門図書館でどうしていくかっていうことを考えなきゃいけないというのが。ただ手法としては非常に勉強になりましたし、手法というかそのホームページを見るというのがいいのかどうかはいろいろありますけれども、こういうやり方が有効だよっていうことを勉強できたのは良かったので、この先ちょっと考えていきたいなと思っています。一緒に考えてくれる人を募集します。

常川: ありがとうございます。その当事者が参加されるということの大事さっていうのを考えていらっしゃるということでしたけれども。

やはり今後の展望というところを改めてあのディスカッションできればなと思っています。コロナ COVID-19 の影響が少し変わってきている中でこれからどうするか。何が残していけるかというところですけども。関さんからはお話を伺いましたが、子安さんからはいかがでしょうか。

■これまでとこれから

子安: 実はこの先の展望には本当に悩ましいなと思っています。ほとんどもう休館しないっていう方向性になっているので、どこまでその調査を続けたいのかなって、もう別にやめてもいいんじゃないかなっていう気持ちもあるんです。ただ、始めた当初に何か自分たちが困ったりとか悩んだりしたことそのうち全部押し流されて、何かちょっと整った形にされて、何もなくなっていくような感じ、

別に私達何も失敗しませんでしたみたいに、きれいに丸く片付けられちゃうんじゃないかな、みたいな不安がちょっと自分の中にはあって。なのでもう調査やめましようかっていうのをちょっと提案できないみたいなのがあったりします。でも多分これは皆さんと話し合っ、どこかいいところに落ちつくのかなっていうふうには思ってい

て、そういう意味では、この saveMLAK に関わるだけじゃないんですけど、こういう何て言うんですかね、集まれるコミュニティがあったっていうことが本当に私達にとっていうか、私にとってはすごいありがたかったしこの繋がりを大事にしたいなっていうふうに思っています。なぜかという、多分、この不安な3年間、だんだんその何ていうかな、対応に慣れてきたとはいえ不安な3年間やっぱり乗り切れたのは、このメンバーでいろんなことが話し合えたりできたからかなと思っているし、いろんな図書館の姿を見てこれだからかなと思ってるので、という感じです。何の展望ではないんですけど。

常川: ありがとうございます。でも今後これを忘れないためにどうしていくかっていうところは非常に大きな課題。そういう意味でも、このコミュニティがあるってことはとても大事だと考え、あの、お話しって、感じました。

小陳さんからはいかがでしょうか。

小陳: 本当に、こちらも、いつやめようかなっていうところはあるにはあります。

先ほど皆さんから言ってくださったように、データをなんとかして何らかの成果が出るんなら本当にそれに勝る嬉しさはないのですけれども、そうですね、

saveMLAK 自体、震災の直後に立ち上げていただいて Wiki も共同で書いていくっていうような、そういうカルチャー、土壌を作ってくれたからこそ今の一緒にやる調査があって、これがまた、次の何かにきっと生きるんじゃないかなという感じはしています。

常川: はい、ありがとうございます。小陳さんの発表にもありましたが、やはり saveMLAK のこのコミュニティが誰もがいつでもやれて自由に参加できるという場があったからこそこのコミュニティを選んでいただいたということもありまして、そういうところは非常に重要なと。またデータをどう活用するか、これからの課題ですね。むしろそれをどう取り組んでいくかが次のプロジェクトかなと感じております。次の何かに生きるんじゃないか。これについては私からですと公共図書館の調査ってのは付帯調査も行われていてこれを COVID-19 の影響だけではなく、何か Facebook の利用動向だとか、Instagram の利用動向とかい



ろんな他の応用調査もされていたので、そういう意味で次の何かってところの既にやられてるところもあるかと思えますので、私としても、次の別の何かの事象の調査に対してベストプラクティスが展開されればと考えております。

【Sigure Uchita】

saveMLAK 会計 2022 年 11 度会計報告

支出

11/9 サーバー代立替精算（田辺さん） 55,959 円、振込手数料（ゆうちょ銀行） 440 円

残高

ゆうちょ振込専用： 66,740 円
ゆうちょ総合： 882,013 円
みずほ： 4,890 円
残高合計： 953,643 円

2022 年 12 度会計報告

収入

12/27 グッズ売り上げ（谷合さん） 4,700 円

残高

ゆうちょ振込専用： 71,440 円
ゆうちょ総合： 882,013 円
みずほ： 4,890 円
残高合計： 958,343 円
【saveMLAK ファンド係】

編集後記

みなさま、あけましておめでとうございます。2022 年のうちに発行をしようと思っておりましたが、年を越えてしまいました。

さて、今号では、2022 年 11 月に図書館総合展で開催したイベントの報告を掲載しています。特にイベント後半のディスカッションについては、そのやりとりを丁寧にまとめてくださっています。私自身もそうでしたが、当日の参加が叶わなかった方々には是非ご一読いただきたいと思います。また、図書館の動向調査は、今後も実施していく予定とのことですので、ご関心のある方の参加をお待ちしています。

2023 年は、対面のイベントも再開されていくと予想されます。しかし、saveMLAK は対面/オンラインの両方を活用した繋がりが強みだと感じています。今年も皆様と繋がりながら活動を展開できれば嬉しく思います。

*ムラックくん、少しうさぎ的などがあるなと編集後記を書いていて思いました。

【あこたかゆき：編集担当】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2023 年 1 月 2 日（月）（第 76 号）
発行所：神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル
さくら WORKS<関内>407
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：<https://savemlak.jp/>



2022 年 11 月～12 月の出来事と今後の予定

11 月 7 日（月）

第 139 回 Meet Up を開催

11 月 10 日（木）

図書館総合展オンライン 2022 にてイベント開催

12 月 10 日（土）

第 140 回 Meet Up を開催

2023 年 1 月 16 日（月）

第 141 回 Meet Up を開催予定



※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません